教育プログラム・コースの概要

大学名等	慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科修士課程看護学専攻
教育プログラム・コース名	がん個別化医療を支える専門看護師コース(正規課程)
対象職種・分野	健康マネジメント研究科修士課程看護学専攻CNSプログラム（がん看護・遺伝看護・精神看護・老人看護専門看護師）大学院生
修業年限（期間）	２年
養成すべき人材像	がん患者のライフステージの特徴や課題を理解し、複雑ながんの診断、治療と有害事象、後遺症等に関わる知識・技術と倫理観を養い、最適な個別化医療を支える高度看護実践とケア開発ができる人材を養成する。 特にライフステージにおけるがんや治療の長期的な影響（妊孕性温存、認知機能、機能温存・喪失など）を理解したうえで多様な治療選択からの最適な意思決定を支え、治療継続の支援、症状緩和、機能回復に向けたセルフケアを支える高度実践ができる人材を養成する。またがんサバイバーのQOL維持・向上に向けた全人的なケアを習得し、患者、家族および医療者へ教育的な役割を担える人材、多職種でリーダーシップを発揮できる人材、エビデンスに基づく実践開発研究を推進できる人材を養成する。
修了要件・履修方法	46単位以上を履修し、学位論文審査、最終試験に合格すること
履修科目等	看護学専攻CNSコース 各専門科目（分野）（24単位） がん看護CNSコース：がん治療看護論(2単位) がん薬物療法看護論(2単位) がん病態生理学(2単位)、がん遺伝看護論（2単位）、緩和ケア演習(2) 遺伝看護CNSコース：がん遺伝看護論（2単位）、遺伝看護論（2単位）、遺伝リスク評価法（2単位）、遺伝看護対象論（2単位）、遺伝医療・社会制度論（2単位）、遺伝看護援助論（2単位）、遺伝看護展開論（2単位） 専門科目（共通）（14単位）：コンサルテーション論(2単位）、看護倫理（2単位)、他 専門看護実習（10単位）、特別研究（4単位）
がんに関する専門資格との連携	がん看護・遺伝看護・精神看護・老人看護分野の専門看護師教育課程として日本看護系大学協議会より認定
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	本学には、がん看護、遺伝看護、精神看護、老年看護CNSプログラムが設置されているため、各専門分野の高度実践者と融合的に学習し、知識や技術、協働の姿勢を力動的に養うことができる。 各CNSプログラムには専門的な医療、看護を深く学ぶために必要な科目が設置されていることに加え、特に大学病院にはがんプロで養成されたがん関連の専門看護師による実習の教育体制も十分に整っている。腫瘍内科・ゲノム医療・緩和医療などの医師とも十分な連携が取れており、最先端のがん医療に関する科目が設置され、習得できる。また大学病院には臨床遺伝学センターが設置されていることから、遺伝看護CNSプログラムの学生はがんゲノム医療に必要な専門知識を幅広く学ぶことが可能である。
指導体制	看護学専攻　研究科委員 21名に加え、医学部、臨床遺伝学センターの兼担教員により講義、演習、実習が行われる。特に、がん看護・遺伝看護・精神看護・老年看護分野の専門看護師教育課程を教授する教員により、各専門分野の高度な教育が展開できる。
修了者の進路・キャリアパス	修士課程修了後、日本看護協会のがん看護専門看護師・遺伝看護専門看護師・精神看護専門看護師・老人看護専門看護師に合格し、各領域の専門看護師として、がんの個別化医療を支える人材として活躍する。
受入開始時期	令和６年４月

受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	2	2	2	2	2	10

受入目標人数設定の考え方・根拠	過去の大学院志願者数から毎年度1-2人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を2人と設定した。

履修者数 ※当該年度に「新たに」入学した人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	2	1					3